

研究概要:「韓国と日本の核潜在力の比較と原子力協力」

韓国光云大学国際学部教授 全鎮浩(Jeon Jinho)

2024年10月から2025年1月まで外国語学部の客員研究員として文京学院大学にお世話になり、研究活動を行った。研究テーマは北朝鮮の核脅威に対応するための「韓国と日本の核潜在力の比較と原子力協力」である。北朝鮮による核の脅威が増加する中で、韓国と日本は北朝鮮の核脅威に対してどのような対応政策を持っており、また北の核脅威に対して韓国と日本が協力できる空間はあるのかという点を主に研究した。

今回の調査研究は日韓両国の国会図書館での資料調査及び関連専門家に対するインタビューなどのフィールド・リサーチの形で進行された。研究過程で文京学院大学が提供した研究室で資料の整理及び論文の執筆などが可能になった。研究の成果は今年中に研究論文として学術誌に掲載する予定である。また研究期間中に、文京学院大学外国語学部が開いた「Global Seminar 2024」で、「北朝鮮の核脅威と日本の安全保障」といったテーマの講演の機会を頂き、文京学院の学生皆さんとの学術交流ができたこともうれしく思う。

100日という短い滞在期間であったが、研究室やゲスト・ハウスを提供してくれた大学本部はもちろん、様々な支援をしてくださったGSI(Global Studies Institute)に感謝する。特に、受け入れ教授の金彦淑教授や外国語学部の新井教授に特別な感謝を表す。二人の助けがあったため、文京学院での滞在や研究が可能になった。私の韓国での在籍大学の光云大学と日本での研究機会を提供してくれた文京学院大学は交流協定締結校であり、学生間の交換学生制度や学生交流は活性化している。しかし、教員間の交流は活発とは言えない。今回の研究交流を機に、学生のみならず教員間の学術交流も活発化することを期待する。